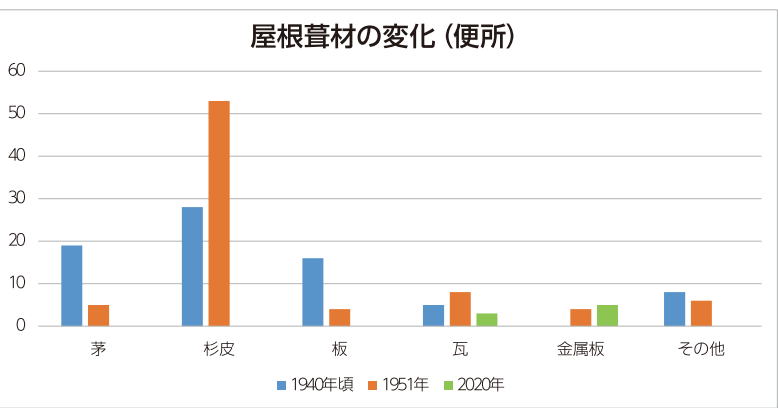
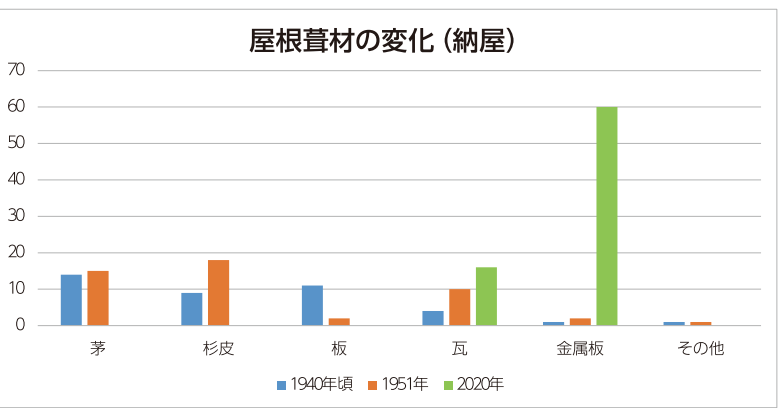
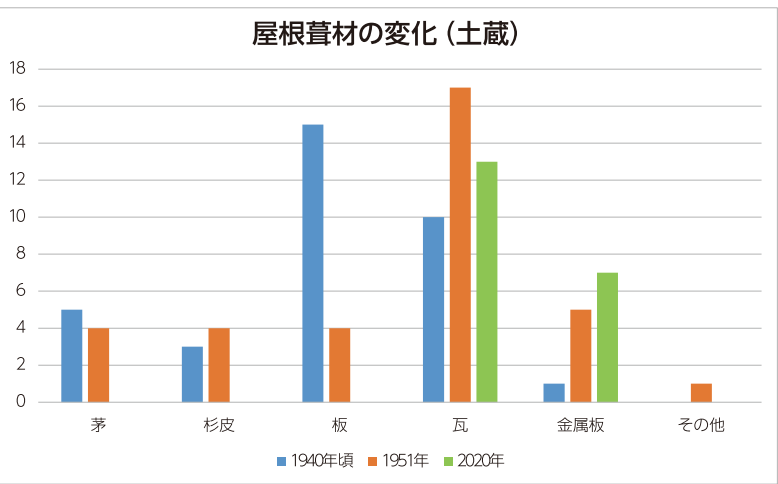
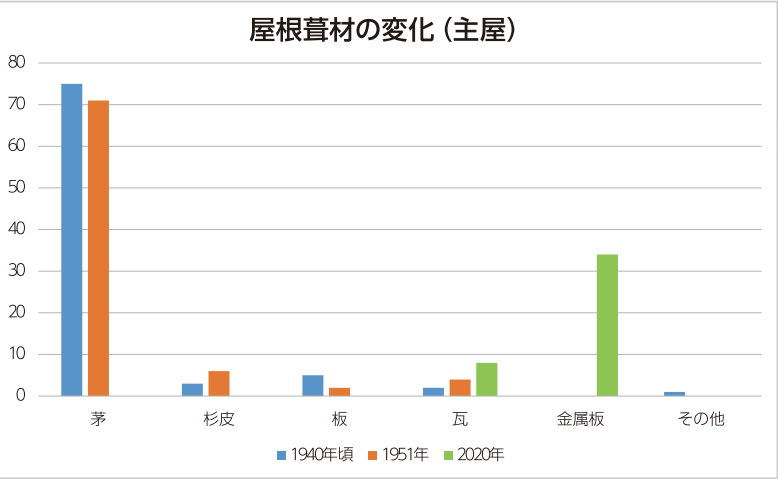


家屋台帳からみた集落景観の変化



菅並自治会所蔵の2つの家屋台帳『大字菅並家屋台帳』（1940 年頃作成）、『建物家屋台帳』（1951 年作成）と、2020 年の調査成果をもとに、集落景観の変化を分析した。特に、建物の屋根材をみると、左側のグラフのように、建物種別によって変化の違いがみられた。

主屋：全体の棟数は減少しているものの、茅葺が主流であることにはかわりはない（2020 年のデータにある金属板葺は、茅葺を覆っている状態のものであり、家並みは茅葺のまま）。

土蔵：1940 年頃は板葺が中心であったが、1951 年には瓦葺が主流になったことがわかる。現在も瓦葺が主流である。

納屋：以前はさまざまな葺材がみられたが、現在は金属板葺が主流である。

便所：以前は杉皮葺が多かった。ただし、時代の変化とともに、主屋内に便所が設けられるようになり、外便所は多くが姿を消した。



（個人蔵）



南側上空から見た令和 4 年 2 月の菅並集落（草野保徳氏撮影）



かつての菅並集落の風景（個人蔵）

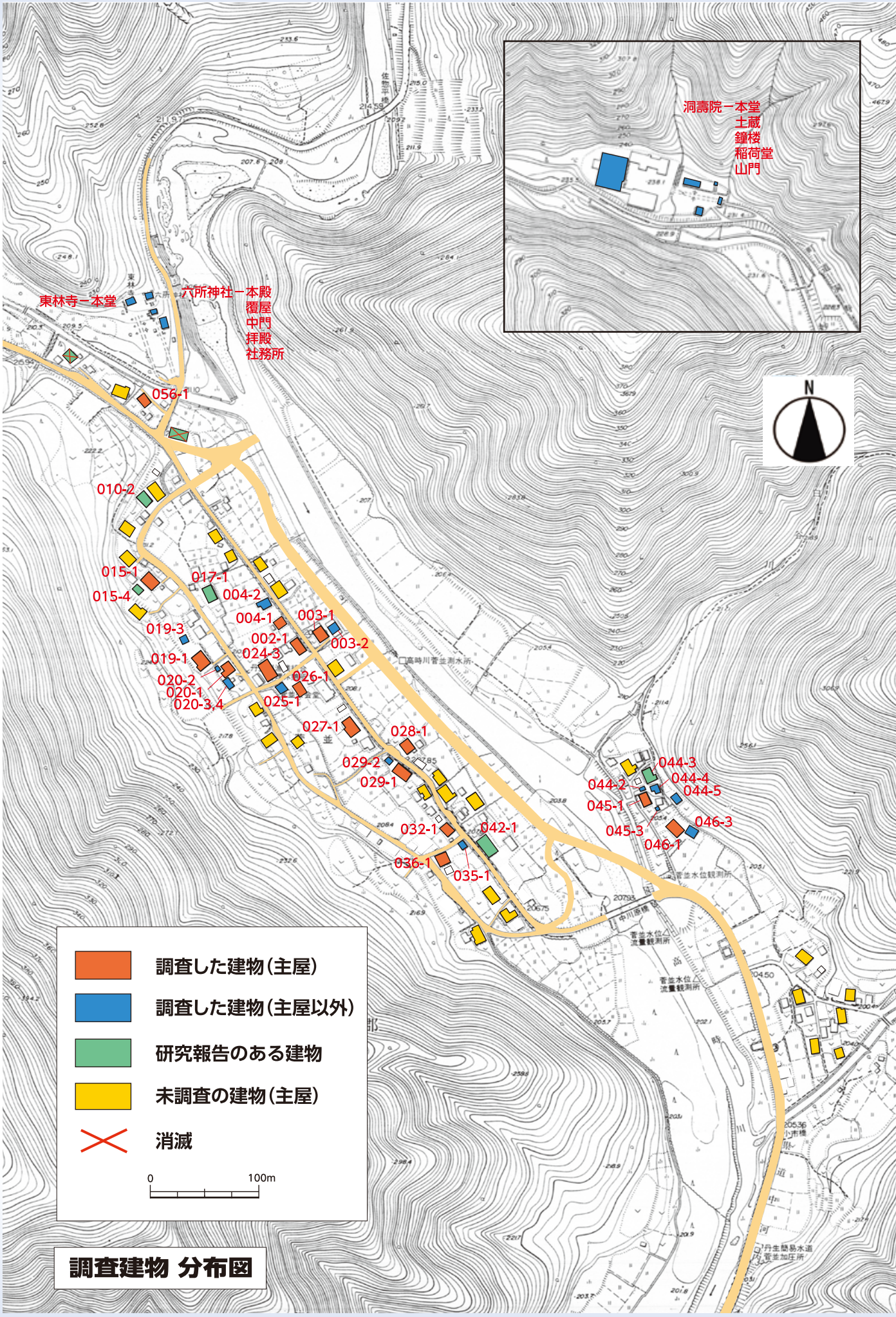


かつての菅並集落の風景（菅並自治会蔵）

令和 4 (2022) 年 3 月
菅並集落伝統的建造物群保存対策調査 概報Ⅱ
制 作：滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 石川慎治
編 集：長浜市市民協働部歴史遺産課
発 行：長浜市
発行所：谷口印刷株式会社



長浜市余呉町
菅並集落 伝統的建造物群
保存対策調査 概報Ⅱ



■ 概 要

長浜市余呉町菅並集落には、多くの茅葺民家が現存している。それらは、かつて湖北地方で多く見られた「余呉型民家」と呼ばれる民家であり、入母屋造・妻入り・サス組みの屋根、ニワ（土間）・タイドコ（土座）・ザシキ・ネマからなる広間型三間取の間取りを持つ。ニワとタイドコにかかる十字に組んだ梁の架構も特徴的である。

また、敷地は主屋・土蔵・隠居屋・田畑で構成され、余呉町内でも菅並集落は伝統的な景観をよく残している地域である。

■ 伝統的建造物群保存対策調査

貴重な建造物と伝統的な景観を伝える菅並集落だが、集落の価値を再確認し、それらを活かしたまちづくりを行うことで、将来的な集落の維持を行うことが必要である。この事業では、菅並集落の民家や歴史・民俗・環境を把握するため、令和2～4年度に文化庁の補助金を得て伝統的建造物群保存対策調査を実施している。調査は、長浜市歴史遺産課の委託のもと、滋賀県立大学が担当した。民俗・歴史調査では、共同調査を実施している。令和3年度の調査成果は以下のとおりである。

【調査担当者】 ①建造物調査 滋賀県立大学環境科学部 高田豊文 教授／高屋麻里子 講師
滋賀県立大学人間文化学部 濱崎一志 元教授／石川慎治 教授
②民俗調査 滋賀県立大学人間文化学部 市川秀之 教授
③歴史調査 滋賀県立大学人間文化学部 東 幸代 教授

① 建造物調査

菅並の建造物の記録を行い、特に集落内における余呉型民家（主屋）の変遷などを考察した。

● 実測調査（建物）（P1.「調査建物 分布図」、P4.「建物一覧表」）

◆主屋6棟、土蔵1棟、隠居屋2棟、その他10棟の実測調査を実施した。

〈建物（主屋）〉

○令和2～3年度の調査から編年表（案）を作成した（P5.「主屋平面の編年表（案）」「主屋断面の編年表（案）」）。

○江戸期・明治期（余呉型民家）は、茅葺・入母屋造・妻入り・南入口・広間型三間取であるが、大正期になると、瓦葺の導入・十字梁構造の消失といった変化がみられる。なお、間取りは、依然、江戸期・明治期と類似したものが多かったと推測される（P6.「菅並の民家構造の変化」）。

〈建物（杜寺建築）〉

○集落北側にある六所神社、東林寺、洞壽院の主要建造物について調査を行った。

● 集落空間調査

◆ドローンによる空中写真撮影（夏期・秋期・冬期）を行った（撮影協力：草野保徳氏）。

● 集落調査（P2.「家屋台帳からみた集落景観の変化」）

◆『大字菅並家屋台帳』（昭和15年頃作成）、『建物調査台帳』（昭和26年作成）と、令和2年の調査データをもとに、菅並集落の景観変化を考察した。また、『建物調査台帳』をもとに、昭和26年の集落内の建物配置の復元を試みた。

● 構造・防災調査

◆実測調査を行った主屋の中から4棟の耐震診断を行った結果、梁間・桁行方向とも耐力が小さいこと、梁間方向の壁の片寄りが大きいため評点が大幅に低減されていること、積雪荷重の影響もあって評点が低くなっているものの、雪下ろしを行えば評点は改善すること、などの耐震性能に関する特徴を明らかにした。

② 民俗調査

菅並の生活文化についての記録を行った。「社会組織、生業、交通・交易、住生活、食生活、社寺と祭祀組織、ムラの年中行事、家の年中行事、山と峠、災害、人生儀礼」について聞き取り調査等を行った。令和3年度は、集落内水路網の復元調査にも取り組んだ。

③ 歴史調査

菅並地区の古文書（主に、集落景観や建物に関するもの）の写真撮影や目録作成を行った。特に、『六所神社所蔵文書』については、境内建物の建築年代などに関する記述を確認している。また、地元住民が所有する集落内の建物・風景を中心とした古写真の収集・データ化を行った。

建物一覧表（令和2年・3年調査時）

主屋※1	建築年代※2	当初の間取り	上屋の梁間幅	縁側※4	付樋端	大黒柱の 一辺の長さ(mm)	ネマ・ザシキ 境の半間壁	ネマ・ザシキ 境の柱の省略
△003-1	18C前期(1)	広間型三間取	3間	×	○	不明	○(全面壁)	×
△消滅①	18C中期(1)	広間型三間取	2間半	×	不明	不明	×	○
045-1	18C中期(1)	広間型三間取	2間半	×	○	不明(八角柱)	○	×
010-2	18C中期(1)	広間型三間取	2間半	×	不明	不明	×	○
消滅②	18C中期(1)	広間型三間取	2間半	×	不明	不明	×	○
029-1	18C中期(1)	広間型三間取+α	3間	●	○	220	○	×
△020-1	18C中期(1)	広間型三間取	2間半	●	○	240	×	○
056-1	18C後期(1)	広間型三間取	2間半	×	○	230	○	×
002-1	18C後期(1)	広間型三間取	2間半	●	×	240	○	×
019-1	不明※3(18C後期～19C前期)	広間型三間取	3間	×	○	240	×	○
032-1	19C前期(1)	広間型三間取	2間半	●	○	250	○	×
044-3	19C前期(1)	広間型三間取	2間半	●	○	250	×	○
028-1	19C前期(1)	広間型三間取	2間半	●	×	240	×	○
△027-1	19C前期(1)	広間型三間取+α	3間	●	○	325	×	○
015-1	19C中期(1)	広間型三間取	2間半	×	○	280	×	○
024-3	明治2年(2)	広間型三間取	2間半	○	×	290	×	○
△036-1	明治5年(1)	広間型三間取	2間半	×	×	300	×	○
042-1	明治18年(1)	広間型五間取	3間	○	不明	不明	×	○
017-1	明治20年(1)	広間型三間取	2間半	●	不明	不明	×	○
026-1	大正2年(1)	広間型三間取?	3間	×	×	不明	×	○
004-1	大正5年(1)	その他	2間	×	×	不明	×	-
△046-1	昭和5年(1)	広間型三間取	2間半	○	×	330	×	○

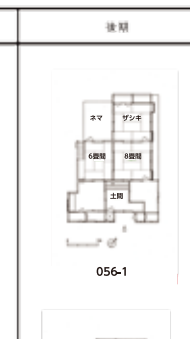
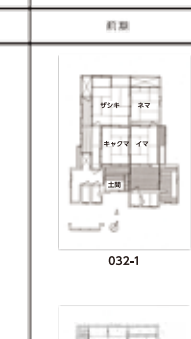
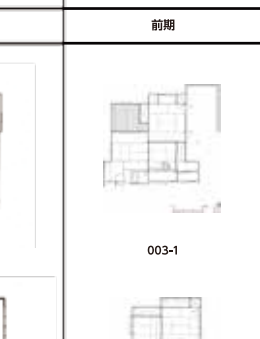
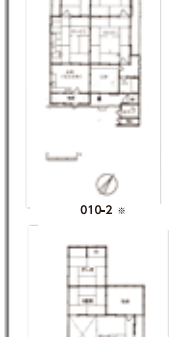
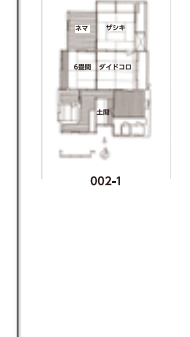
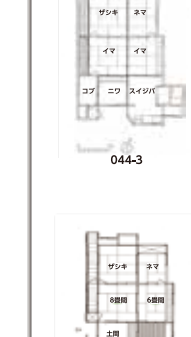
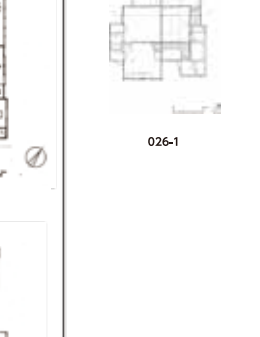
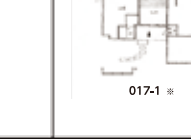
隠居屋※1	建築年代※2	当初の間取り	上屋の梁間幅	縁側※4	屋根材	屋根材 (昭和26年)
025-1			3間		トタン葺	
035-1	18C前期(1)	二間取	2間	×	瓦葺	茅葺
044-5	不明	二間取	2間半	×	瓦葺	茅葺
003-2※5	19C中期(1)	一間取(2階建)	2間	×	瓦葺	板葺
004-2	大正7年(1)	四間取	2間	○	金属板葺	-

土蔵※1	建築年代※2	平面規模 (梁間×桁行)	平・妻	屋根形式	壁仕上げ	屋根材	屋根材 (昭和26年)
020-3	18C中期(1)	2間×2間半	平入り	置屋根	中塗	瓦葺	茅葺
019-3	18C中期(1)	2間×2間半	平入り	置屋根	中塗	瓦葺	杉皮葺
015-4	19C前期(1)	2間×3間	妻入り	置屋根	中塗	トタン被茅葺	茅葺
046-3	19C前期(1)	2間×2間半	平入り	置屋根	漆喰	瓦葺	杉皮葺
044-4	19C中期(1)	2間×3間	妻入り	置屋根	中塗	瓦葺	瓦葺
029-2	19C中期(1)	2間×2間半	妻入り	置屋根	漆喰	瓦葺	瓦葺
003-2※5	19C中期(1)	2間×3間	妻入り	置屋根	漆喰	瓦葺	板葺

神社・寺院	建物	建築年代	屋根形式	屋根材	備考
六所神社	本殿		流造	板葺	一間社
六所神社	祠堂	明治27年(3)	切妻造	金属板葺(茅葺)	
六所神社	中門		切妻造	銅板葺	薬医門
六所神社	拝殿	明治42年	入母屋造	金属板葺(茅葺)	
六所神社	社務所		切妻造	金属板葺	
東林寺	本堂		入母屋造	金属板葺(茅葺)	
洞壽院	本堂	文久3年(4)	入母屋造	金属板葺	
洞壽院	土蔵		切妻造	瓦葺	置屋根
洞壽院	鐘楼		切妻造	瓦葺	
洞壽院	稲荷堂		流造	銅板葺	
洞壽院	山門	18C中期(4)	切妻造	銅板葺	四脚門

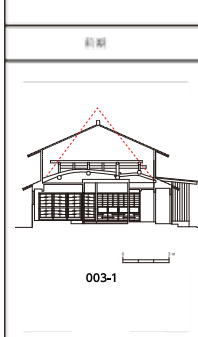
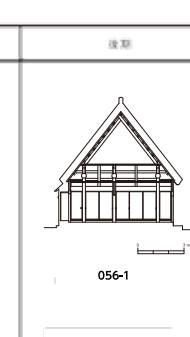
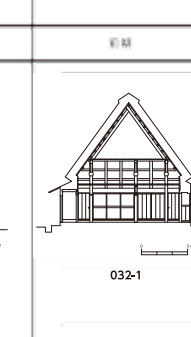
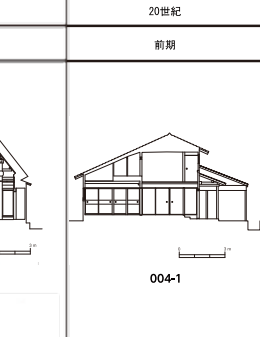
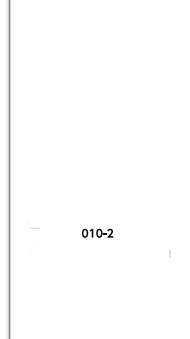
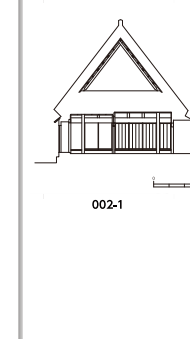
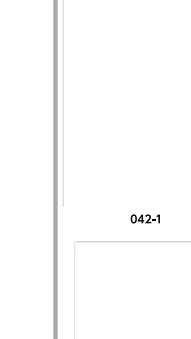
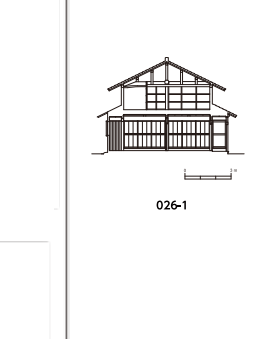
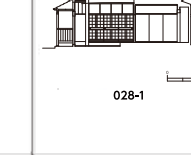
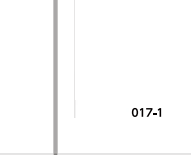
※1 P1調査建物分布図と対応する。△は移築したものを示す。
※2 建築年代について (1)「家屋調査台帳」(昭和26年)から判断 (2)聞き取りなどから判断 (3)古文書などから判断 (4)「滋賀県の近世社寺建築」(昭和61年)。
※3 019-1の建築年代は今回の分類の結果から推定したものである。
※4 ×縁側なし
●建築当初に縁側なし、現在は縁側あり
○建築当初に縁側あり
※5 003-2は、土蔵に隠居屋が増築された建物。

主屋平面の編年表（案）

18世紀			19世紀			20世紀
前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期
						
						
						

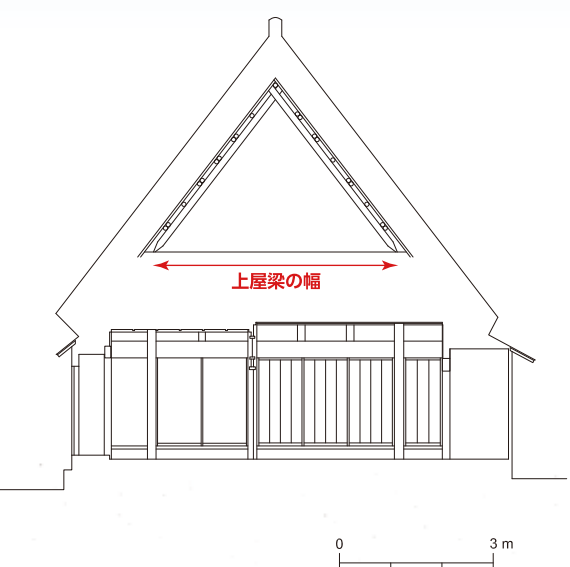
※ 003-1、010-2、017-1、042-1、消滅①、消滅②は、「高神川ダム建設地域民俗文化財調査報告書」(1991年)より転載

主屋断面の編年表（案）

18世紀			19世紀			20世紀
前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期
						
						
						

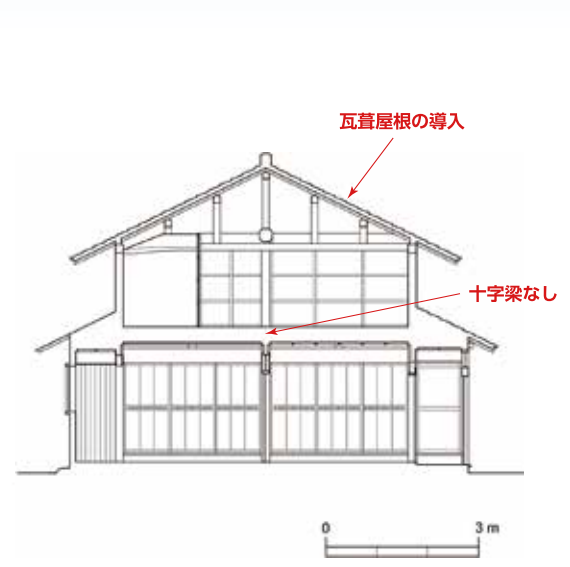
菅並の民家構造の変化

< 江戸期 >

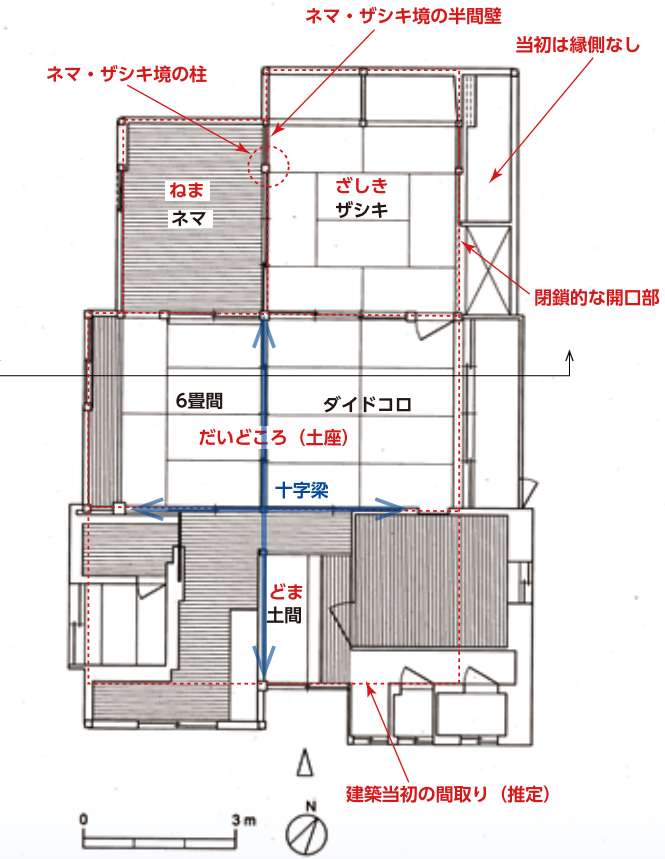


(002-1) 主屋 断面図

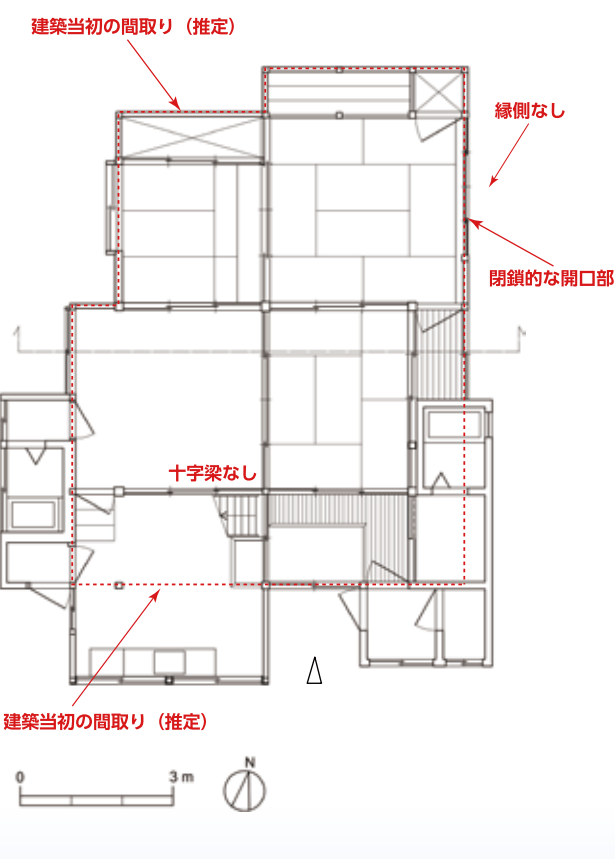
< 大正期 >



(026-1) 主屋 断面図



(002-1) 主屋 平面図



(026-1) 主屋 平面図